

文化遺産総合活用推進事業 実施計画

1 都道府県・市区町村名	熊本県宇土市	2 補助事業の種類	地域文化遺産活性化
3 実施計画の名称	宇土の文化遺産を活かした地域活性化プラン		
4 実施計画期間	平成 29 年度 ～ 平成 33 年度		
5 実施計画の概要			
宇土市には、江戸～明治期にかけて制作された雨乞い大太鼓（国指定重要有形民俗文化財）が26基現存しており、大太鼓を所有する各地区保存会が伝統的な雨乞い大太鼓の保存継承に取り組んでいる。また、18世紀中頃から奉納されている宇土御獅子舞（熊本県指定重要無形民俗文化財）等の無形民俗文化財が地元保存会によって継承されている。今後、これらの文化遺産の魅力を広くPRするとともに、次世代へ継承する取り組みを行うことによって地域の活性化につながる事が期待される。 本計画において、宇土雨乞い大太鼓の専門的な調査研究、次世代への継承・発展や、雨乞い大太鼓を活用した地域コミュニティの活性化を推進するための事業を実施する。あわせて、宇土御獅子舞をはじめとする無形民俗文化財についても、映像記録の作成やその活用を通じ、将来的な後継者育成へとつなげるための事業を行う。 このような取り組みを通じて、宇土市全体で地域の宝である雨乞い大太鼓や宇土御獅子舞等の有形・無形民俗文化財を保存・継承し、活用していくための体制の確立を目指すとともに、文化遺産を活かした地域活性化へとつなげることを目的とする。 【主な取り組み】 情報発信事業（インターネット等を活用した情報発信等） 普及促進事業（地域の民俗芸能等を一堂に公開する取組等） 後継者養成事業（各地区大太鼓保存会への講師派遣による稽古の実施等） 用具等整備事業（太鼓等の用具の修理、修理一般公開等）			
6 実施体制			
本補助事業は「宇土雨乞い大太鼓魅力再発見事業実行委員会」が実施する。構成団体は以下のとおり。また、本実施計画に係る全体的な企画・調整や各事業に係る指導等を宇土市（主管課：宇土市教育委員会文化課）が行う。 【構成団体】 宇土市・宇土市教育委員会・宇土雨乞い大太鼓保存会・NPO法人宇土の文化を考える市民の会			
7 実施計画における目標と期待される効果		別紙①のとおり	
8 補助事業の概要	(1) 補助金額	～平成29年度交付決定額： 7,229 千円	平成30年度申請額： 2,113 千円
(2) 実施事業の概要		別紙①、②の通り。	
9 その他計画実施により想定される効果（定性的な効果を記載）			
国指定重要有形民俗文化財の「宇土の雨乞い大太鼓」は、雨乞い太鼓としては我が国唯一の国指定文化財であり、県内外から大きな注目を集めている。本計画を実施することにより、大太鼓をはじめとした有形・無形民俗文化財の保存活用が更に促進されるだけでなく、大太鼓収蔵館や大太鼓フェスティバル、宇土御獅子舞が奉納される西岡神宮例大祭等への県内外からの観光客が増加し、宇土市の観光振興や地域振興にも大きく寄与すると考えられる。			
10 その他事業（自主財源、民間団体、他省庁等からの補助（支援）を予定している事業など）			
事業概要：			
11 「歴史文化基本構想」の策定や「歴史的風致維持向上計画」の作成・認定に向けた計画の見込等			
現在のところ計画していないが、今後、必要に応じて検討する予定。			
12 担当部局			
地方公共団体 担当部局課	宇土市教育委員会文化課（文化係）		

7 実施計画における目標と期待される効果 別紙

目標区分 1 :	地域の文化資源を活用した集客・交流					
評価指標区分 1 :	地域の文化遺産関係資料館、博物館等の年間入館者数 (具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標 1 :	宇土市大太鼓収蔵館の年間入場者数	関連事業:		事業①		
目標値 1 :	平成 28 年度	2,400 人	⇒	平成 33 年度	2,900 人	
設定根拠 1 :	「宇土市まち・ひと・しごと創生総合戦略」における平成26年度から31年度までの観光入込客数目標値1.14倍増を参考として、毎年度伸び率1.2倍と設定					
進捗状況 1 :	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
3,681 人	人	人	人	人	人	
256%						
目標区分 2 :	地域の文化資源を活用した集客・交流					
評価指標区分 2 :	地域の祭礼行事等への入込客数 (具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標 2 :	大太鼓フェスティバル来訪者数	関連事業:		事業①, 事業②		
目標値 2 :	平成 28 年度	850 人	⇒	平成 33 年度	1,100 人	
設定根拠 2 :	平成26年度から過去 2 ヶ年の増加率約15%に対し、約 2 倍の30%増を設定					
進捗状況 2 :	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
0 人	人	人	人	人	人	
※天候不順のため、 「大太鼓フェスティバル」が中止。						
目標区分 3 :	伝統文化の継承体制の維持・確立					
評価指標区分 3 :	祭礼行事等の保存会会員数、保存団体数 (具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標 3 :	宇土市内各地区雨乞い大太鼓保存会団体数の維持	関連事業:		事業②, 事業③		
目標値 3 :	平成 28 年度	26 団体	⇒	平成 33 年度	26 団体	
設定根拠 3 :	各地区保存会の人口社会減の状況から、現状維持を設定					
進捗状況 3 :	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
28 団体	団体	団体	団体	団体	団体	
108%						
目標区分 4 :	地域の文化資源を核としたコミュニティの再生・活性化					
評価指標区分 4 :	その他 (具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標 4 :	各地区雨乞い大太鼓保存会の登録者数の維持	関連事業:		事業②, 事業③		
目標値 4 :	平成 28 年度	500 人	⇒	平成 33 年度	500 人	
設定根拠 4 :	各地区保存会の人口社会減の状況から、現状維持を設定					
進捗状況 4 :	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	
510 人	人	人	人	人	人	
102%						

8 (2) 実施事業の概要 別紙

事業①： 地域の文化遺産普及促進事業		実施団体： NPO法人宇土の文化を考える市民の会			
事業区分： 普及啓発		事業期間： 平成 29 年度 ～ 平成 33 年度			
事業概要： 市民が地域の文化遺産に触れ伝統文化への意識高揚を図るため、県内外の民俗芸能保存団体による「地域伝統芸能祭」を開催する。					
評価指標区分： ・その他		(具体的な指標は次のとおり)			
具体的な指標： SNS上の情報発信の「いいね」の数（地域伝統芸能祭公式Facebook, Twitter, Lineアカウント上の「いいね」をカウントする）					
目標値： 平成 28 年度 100 いいね ⇒ 平成 33 年度 2,000 いいね					
進捗状況： 各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度
100 いいね	いいね	いいね	いいね	いいね	いいね
100%					
事業②： 地区雨乞い太鼓保存会後継者育成事業		実施団体： 宇土雨乞い大太鼓保存会（各地区雨乞い大太鼓保存会）			
事業区分： 後継者養成		事業期間： 平成 29 年度 ～ 平成 33 年度			
事業概要： 後継者育成のため、宇土市内各地区の雨乞い大太鼓保存会へ講師を派遣し、計10回程度の稽古を行う。あわせて、イベント等で演奏を披露する。					
評価指標区分： ・祭礼行事への参加住民数		(具体的な指標は次のとおり)			
具体的な指標： 各地区雨乞い大太鼓保存会が参加する「大太鼓フェスティバル」への参加住民数					
目標値： 平成 28 年度 150 名 ⇒ 平成 33 年度 200 名					
進捗状況： 各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度
0 名	名	名	名	名	名
※天候不順のため、「大太鼓フェスティバル」が中止。					
事業③： 宇土雨乞い大太鼓 各地区太鼓祭に使用する大太鼓の修理及び一般公開事業		実施団体： 宇土雨乞い大太鼓保存会（各地区雨乞い大太鼓保存会）			
事業区分： 用具等整備		事業期間： 平成 29 年度 ～ 平成 33 年度			
事業概要： 各地区雨乞い大太鼓保存会が保有する雨乞い大太鼓の張り替え及び当該作業の一般公開を行う。					
評価指標区分： ・保存会会員数の変化（維持）		(具体的な指標は次のとおり)			
具体的な指標： 各地区雨乞い大太鼓保存会の登録者数の維持					
目標値： 平成 28 年度 500 人 ⇒ 平成 33 年度 500 人					
進捗状況： 各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度
510 人	人	人	人	人	人
102%					